

北九州都市圏域  
連携中枢都市圏ビジョン  
(第2次改訂版(案))

平成30年4月  
北九州市

知るほどに  
物語ありて  
北の九州



# 目 次

I	連携中枢都市圏及び構成自治体	
1	目的	1
2	連携中枢都市圏の名称	1
3	連携中枢都市圏を構成する市町の名称	1
4	連携中枢都市圏のロゴマーク・キャッチフレーズ	2
II	圏域市町の概要・都市機能の集積	
1	圏域市町の概要	3
	(1) 圏域市町の状況	3
	(2) 圏域市町の通勤・通学割合	4
	(3) 「北九州都市圏域」の都道府県との比較	5
2	都市機能の集積状況	8
III	国立社会保障・人口問題研究所による圏域の推計人口	
1	圏域の将来推計人口	13
2	人口構成（推計）	16
IV	圏域の中長期的な将来像	
1	圏域の方向性	17
	(1) 圏域の目指す姿	17
	(2) 圏域を超えた連携	17
2	圏域の中長期的な目標	17
3	取組期間	19
4	圏域の成果指標	20
5	都市圏ビジョンの推進体制	21
V	連携協約に基づき推進する具体的取組	
1	経済成長のけん引に係る取組	22
2	高次の都市機能の集積及び強化に係る取組	30
3	生活関連機能サービスの向上に係る取組	34
	A 生活機能の強化に係る政策分野	34
	B 圏域内外の結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	49
	C 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	56

# I 連携中枢都市圏及び構成自治体

## 1 目的

地域の中心都市と近隣市町が、「経済成長のけん引」「高次都市機能の集積・強化」「生活関連機能サービスの向上」の3つの柱をもとに連携し、人口減少・少子高齢化社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的とする。

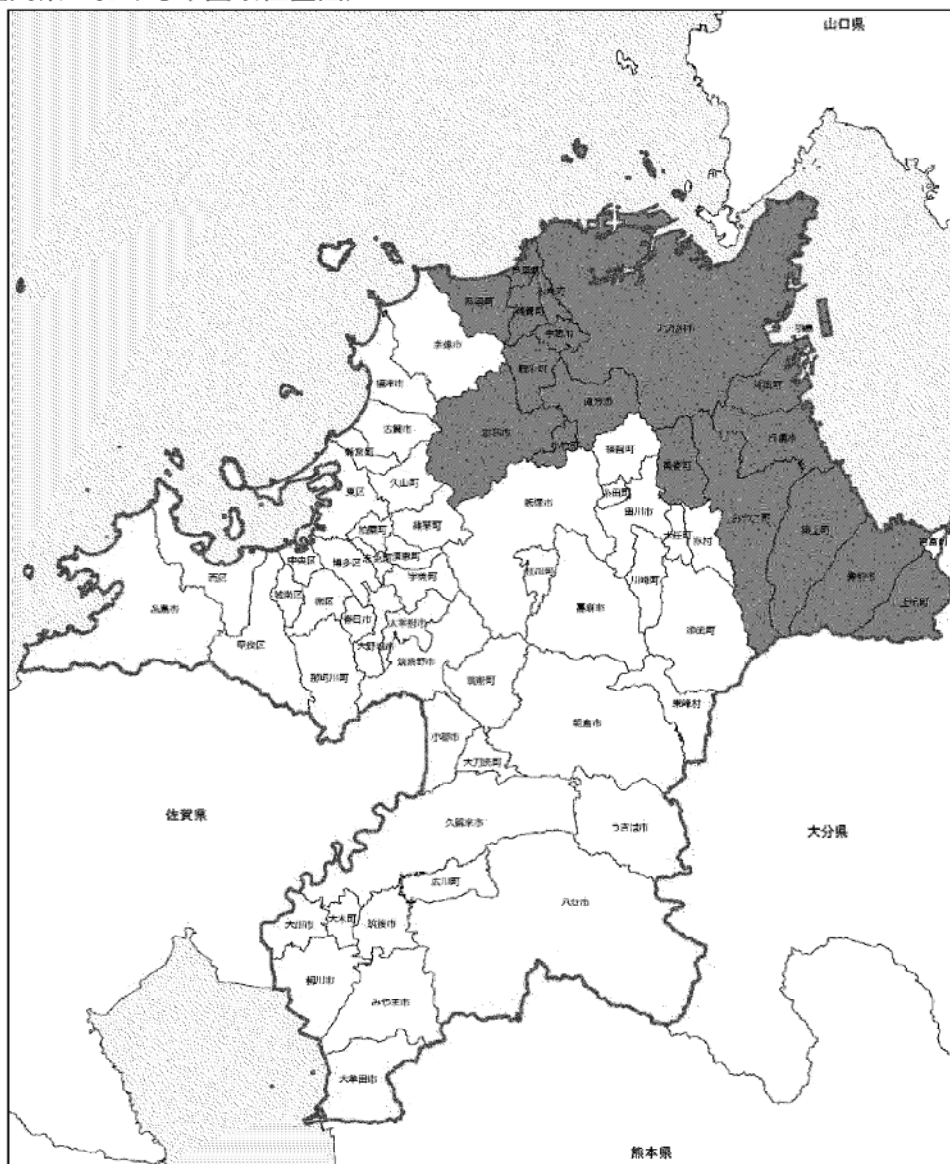
## 2 連携中枢都市圏の名称

本連携中枢都市圏の名称は、「北九州都市圏域」とする。

## 3 連携中枢都市圏を構成する市町の名称（6市11町）

北九州市、直方市、行橋市、豊前市、中間市、宮若市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、小竹町、鞍手町、香春町、荊田町、みやこ町、上毛町、築上町

（福岡県における本圏域位置図）



#### 4 連携中枢都市圏のロゴマーク・キャッチフレーズ

連携中枢都市圏「北九州都市圏域」における取組を推進し、圏域の一体感を醸成していくため、圏域のロゴデザインを以下のとおりとする。

##### 【コンセプト】

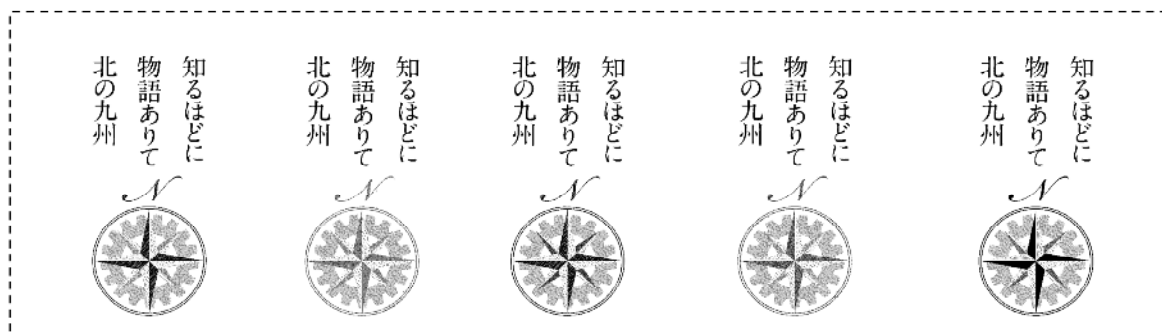
17市町の協働と連携を、産業を象徴する歯車をデフォルメした北を指し示す羅針盤になぞらえた。

圏域各市町の市章・町章の色に対応したオプション色も活用しながら、圏域の一体感を醸成していく。

※メイン色：オレンジ



※オプション色（5種類）





## II 圏域市町の概要・都市機能の集積

### 1 圏域市町の概要

#### (1) 圏域市町の状況

「北九州都市圏域」を構成する6市11町の状況を図表1に示す。

図表1 圏域各市町の状況

市町名	人口(人)	産業別就業人口割合(%)			面積 (k㎡)	概要等
		第1次	第2次	第3次		
 北九州市	961,286	0.8	23.6	71.5 70.4	491.95	九州で最初の政令指定都市。九州の最北部、本州との接点に位置し「官営八幡製鐵所」の創業を契機に“ものづくりのまち”として発展。
 直方市	57,146	1.8 2.1	27.4 27.9	64.9 66.0	61.76	石炭産業の隆盛により培われた“鉄工のまち”としての技術と技能の集積、歴史、文化、自然など地域資源を活かしたまちづくりを行う。
 行橋市	70,586	2.9 3.1	31.2 32.4	63.4 60.2	70.06 70.05	京築地域の中心地として、また近年自動車産業を中心に全国でも有数の工業集積地となった九州北東部地域の中央に位置する拠点都市として広域的な役割・位置付けが高まっている都市。
 豊前市	25,940	6.2 7.0	31.1	60.3 59.0	111.10	南部には修験道で知られる国指定史跡「求菩提山」、天然記念物「ツクシヤクナグ」の群生するヶ岳をひかえ、北東部は海の幸豊富な「周防灘」に面する自然豊かな都市。
 中間市	41,796	0.9 0.8	30.2	66.2 65.2	15.96	炭鉱のまちとして栄えたが、現在は住宅都市として発展。市の中央に遠賀川が流れ、東部は住宅地、商業地が形成され、西部は田園風景が広がり、工業団地なども立地。
 宮若市	28,112	5.3 5.5	28.5 30.7	60.7 62.4	139.99	山と川に囲まれた豊かな水資源を持つ。石炭産業に代わって、トヨタ自動車九州㈱を中心とした自動車産業が進出し、“工業のまち”として発展。
 芦屋町	14,208	3.1 3.0	21.9	71.0 69.0	11.60	町の東側は奇岩景勝の磯場、西側は白砂青松の砂浜と自然豊かな町。茶の湯舎として国の重要文化財に指定されている9点のうち8点が芦屋町で製作された「芦屋釜」であり、歴史文化にも富んだ町。
 水巻町	28,997	1.0 0.7	28.9 28.1	66.1 67.0	11.01	東は北九州市に隣接し、西は遠賀川に挟まれた南北に長い町。石炭産業のまちとして栄えたが、炭鉱閉山後は、積極的な住宅施策により、北九州都市圏内のベッドタウンとして発展。
 岡垣町	31,580	3.5 3.3	24.3 23.4	69.0 69.1	48.64	北九州市と福岡市の中間に位置する良好な交通アクセスと、三里松原や孔大寺山などの自然環境に恵まれた地域特性を背景にベッドタウンとして発展。
 遠賀町	18,877	3.3 3.2	26.1 25.7	67.1 66.3	22.15	古くから農耕文化が栄え、現在も基幹産業は稲作を中心とした農業。交通アクセスにも恵まれ、農村のゆとりと都市の活力を併せ持つ「笑顔としぜんあふれるまちづくり」を進める。
 小竹町	7,810	2.2 2.6	30.4 28.4	65.4 68.5	14.18	福岡県のほぼ中央に位置し、“石炭産業のまち”として発展してきた自然豊かな町。現在は産業団地の企業誘致を積極的に進める。
 鞍手町	16,007	4.4 4.2	34.1 34.6	60.9 60.6	35.60	遠賀川やヶ岳などの自然に囲まれ、主な産業は農業で巨峰の生産が盛んである一方、工業団地もあり製造業も盛ん。九州自動車道のICがあり、交通アクセスに恵まれた町。
 香春町	10,861	2.1 3.1	26.4 25.7	70.8 71.2	44.50	セメント産業を中心に発展。香春岳をはじめとする山々に囲まれ、数々の史跡や文化遺産にも恵まれ、また、町内には5つの窯元がある陶芸のまちでもある。
 苅田町	34,963	1.3	37.9 36.7	58.5 56.5	48.98 48.88	北九州空港、苅田港、東九州自動車道と併せて、陸海空の交通結節拠点となっている。日産自動車九州㈱を中心とした自動車産業が多く立地。
 みやこ町	20,243	8.8	31.3 32.4	59.3 57.5	151.34	英彦山を源流とする清冽な水と山々に囲まれ、オリジナルの農作物が育てられるなど、農業が盛んな歴史、文化、自然に富んだ町。
 上毛町	7,458	10.3 10.5	31.8 32.8	57.2 56.1	62.44	福岡県の最東端に位置する町。東西を山国川と佐井川に挟まれ、南部の山間部を除いて起伏は少なく、町北部に平野が広がるなだらかな田園地帯。
 築上町	18,587	8.7 8.2	25.2 26.1	65.0 64.3	119.61	町の南側に山林を有し、東側は周防灘に面した町。自然豊かな環境を活かした農林水産業が盛んであり、国指定天然記念物「本庄の大楠」や国登録文化財「旧蔵内邸」などの名勝・旧跡もある。
計	1,394,457	1.6	25.4 25.5	69.2 68.1	1,460.87 1,460.76	

(出典) 人口、産業別就業人口割合：総務省「平成27年国勢調査」、産業別就業人口割合：「平成22年国勢調査」(注)  
面積：国土地理院「平成29年全道府県市区町村別面積調」、概要等：各市町村Webサイトほか

注：産業別就業人口割合については、平成29年公開予定の「平成27年国勢調査—就業状態等基本集計結果—」で示される見込み。

## ア 地理・自然的特性

「北九州都市圏域」は、総人口約 139 万人、総面積約 1,460 k<sup>2</sup>であり、ともに福岡県の約 30%を占めている。九州の最北部であるとともに、九州と本州、そして東九州と西九州の結節点に位置し、古くから陸上・海上の交通の要衝として発展してきた。

圏域の西側は福岡都市圏と境を接し、東側は大分県中津市に接するとともに、関門海峡を挟んで山口県下関市にも面している。

三方を響灘、関門海峡、周防灘の海に囲まれ、中心を福智山系が貫き、一級河川の遠賀川を有するなど、壮大な景勝地も多く、豊かな自然環境に恵まれている圏域である。

## イ 産業の特徴

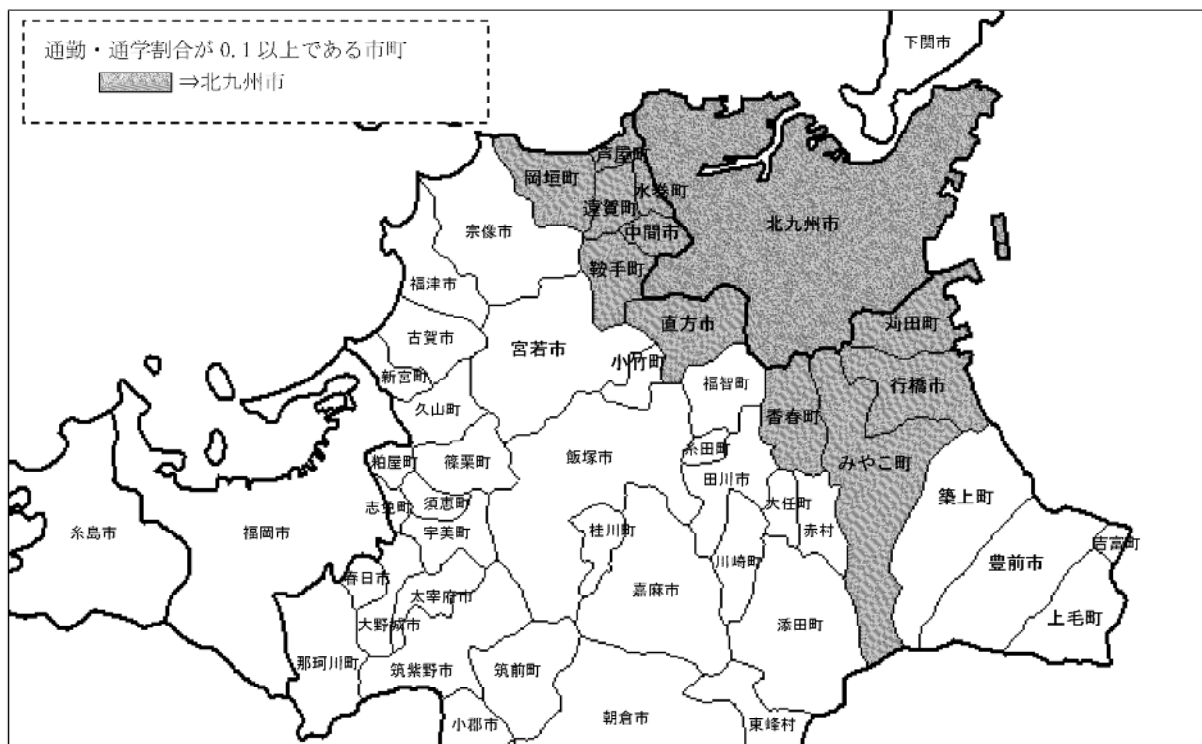
陸上・海上交通の要衝という立地特性を活かし、古くから様々な産業や文化が発展してきた。特に、1901 年の官営八幡製鐵所創業以来、筑豊地域の石炭産業振興や鉄道、港湾の整備などを背景に「北九州工業地帯」を中心とした製造業が発展してきた地域である。

現在も、鉄鋼、機械、化学など様々な素材型産業が集積する一方で、自動車関連産業など新たな分野の企業も進出している。

## ウ 歴史的特性

北九州市の中央部を境に、響灘に面した「筑前の国」と周防灘に面した「豊前の国」に分れていた歴史があるものの、近年は北九州市を扇の中心として一体的な経済圏・生活圏を形成し発展してきた地域である。

## (2) 圏域市町の通勤・通学割合



(資料) 平成 27 年国勢調査「常住地による従業・通学市区町村」をもとに作成

図表 2 圏域の通勤・通学割合

市町名		北九州市への 通勤・通学割合
連携中枢都市	北九州市	
連携市町	直方市	0.15
	行橋市	0.16 0.17
	豊前市	0.05
	中間市	0.12 0.13
	宮若市	0.05 0.06
	芦屋町	0.35 0.34
	水巻町	0.46 0.47
	岡垣町	0.29 0.30
	遠賀町	0.35 0.37
	小竹町	0.06
	鞍手町	0.18 0.19
	香春町	0.11 0.12
	荏田町	0.23
	みやこ町	0.12 0.13
	上毛町	0.03
	築上町	0.09 0.10

※通勤通学割合は平成 27 22年国勢調査による

※    は通勤通学割合が0.1以上である市町

### (3) 「北九州都市圏域」の都道府県との比較

「北九州都市圏域」について、ア：人口、イ：面積、ウ：域内総生産、エ：製造品出荷額の4指標について全国47都道府県（福岡県については、北九州都市圏域を含んだ数値）と比較すると、人口・経済とも中位の都道府県に匹敵する規模であり、比較的狭い面積の中に諸機能が集積した地域であることが分かる。

#### ア 人口

「北九州都市圏域」の人口（平成 27 年国勢調査）を、都道府県と比較すると 28 位相当の規模となる。この規模は、山口県、愛媛県と同程度である（図表 3）。

#### イ 面積

「北九州都市圏域」の面積（平成 27 年）を、都道府県と比較すると最も狭い香川県（1,876.77 72 k m<sup>2</sup>）よりも狭い規模である（図表 4）。

## ウ 域内総生産

「北九州都市圏域」の域内総生産額（平成 2625年度）は 4兆 9878 億円 5兆 517 億円にのぼり、都道府県と比較すると 27 位相当の規模となる。この規模は、鹿児島県、愛媛県に匹敵する大きさである（図表 5）。

なお、「北九州都市圏域」について、経済活動別に域内総生産額（平成 2625年度）の内訳を見ると、「その他の産業（電気・ガス・水道、金融・保険、不動産、運輸、情報通信）」の比率が 30.030.5%と高く、次いで約 20%前後で「サービス業」「鉱工業」が並んでいる（図表 7）。

## エ 製造品出荷額等

「北九州都市圏域」の製造品出荷額等（平成 2826年度）は 5兆 5321 億円 5兆 204 億円にのぼり、都道府県と比較すると 2022位相当の規模となる。この規模は、長野県、岐阜県福島県、京都府に匹敵し、福岡県以外の九州各県（佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）より大きい（図表 6）。

図表 3 圏域の人口の都道府県比較

	都道府県	人口 (人)
1	東京都	13,515,271
2	神奈川県	9,126,214
3	大阪府	8,839,469
	:	
9	福岡県	5,101,556
	:	
23	熊本県	1,786,170
24	鹿児島県	1,648,177
	:	
27	山口県	1,404,729
	<b>北九州都市圏域</b>	<b>1,394,457</b>
28	愛媛県	1,385,262
29	長崎県	1,377,187
	:	
33	大分県	1,166,338
36	宮崎県	1,104,069
42	佐賀県	832,832

(出典) 総務省「平成 27 年国勢調査」

図表 4 圏域の面積の都道府県比較

	都道府県	面積 (k㎡)
1	北海道	83,423.84
	:	
10	鹿児島県	9,187.01
14	宮崎県	7,735.32
15	熊本県	7,409.48
22	大分県	6,340.73
23	山口県	6,112.53
	:	
29	福岡県	4,986.52
	:	
37	長崎県	4,130.88
42	佐賀県	2,440.68
	:	
45	東京都	2,193.96
46	大阪府	1,905.14
47	香川県	1,876.77
	<b>北九州都市圏域</b>	<b>1,460.87</b>

(出典) 国土地理院「平成 29 年全国都道府県市区町村別面積調」